

## 平成29年度秋田県立美術館アドバイザー会議（要旨）

1 日 時 平成29年10月20日（金）午後1時半から午後3時まで

2 場 所 秋田県立美術館 1階レクチャールーム

### 3 出席者

○秋田県立美術館アドバイザー（任期：平成27年11月27日～平成29年11月26日）

|   |       |                   |
|---|-------|-------------------|
| 1 | 小林高太郎 | 仙北市立神代中学校長        |
| 2 | 小松 大秀 | 秋田市千秋美術館長 (欠席)    |
| 3 | 境田 幸子 | 秋田市仲小路振興組合副会長     |
| 4 | 志邨 匠子 | 秋田公立美術大学教授        |
| 5 | 筒井 崇之 | 公益社団法人秋田青年会議所副理事長 |
| 6 | 薮田 智輝 | (公募委員)            |
| 7 | 山田 紗綾 | 秋田大学教育文化学部4年 (欠席) |
| 8 | 山梨絵美子 | 東京文化財研究所副所長       |

○オブザーバー

|   |       |                     |
|---|-------|---------------------|
| 1 | 平野庫太郎 | 公益財団法人平野政吉美術財団 常務理事 |
|---|-------|---------------------|

○事務局

|   |       |                    |
|---|-------|--------------------|
| 1 | 沢屋 隆世 | 秋田県教育庁生涯学習課長       |
| 2 | 高橋 央  | 調整・企画班主幹（兼）班長      |
| 3 | 山崎 裕介 | 調整・企画班主任           |
| 4 | 樫尾 康子 | 生涯学習・学芸振興班副主幹（兼）班長 |
| 5 | 藤原 尚彦 | 学芸主事               |
| 6 | 林 栄美子 | 学芸主事               |
| 7 | 小野寺 康 | 学芸主事               |

### 《次第》

1 開 会

2 生涯学習課長あいさつ

3 報 告

(1) 平成29年度秋田県立美術館事業の概況について

(2) 県民ギャラリーの改修工事について

(3) 平成30年度秋田県立美術館展覧会の予定について

4 協 議（意見交換）

5 その他

## 6 閉 会

### 《議事概要》

#### 1 開会

#### 2 生涯学習課長あいさつ

旧美術館から数えて開館50年という節目の年。それを記念した特別展が現在行われている。これらの作品はフランスに帰れば、今後日本で観られないかもしれない作品であり、私自身、観ていても楽しい展示であり、是非御覧いただきたい。

アドバイザーの皆さんからは、この2年間、さまざまな御意見をいただいたことに心から感謝したい。

すでに御承知かと思うが、これまでにいただいた意見をもとに、県民ギャラリー等の改修にあたることにしており、国の補助金を受けて事業を行う。この内容については本会議で後ほど詳しく説明する。

#### 3 報告（■アドバイザー ★オブザーバー □事務局）

##### □平成29年度秋田県立美術館事業の概況について

- ・解説員から教育普及職員を募り、ワークショップ等を実施している。
- ・セカンドスクールの利用者数が年々減少してきており、PRの必要性を感じている。

##### □県民ギャラリーの改修工事について

これまでアドバイザー会議でいただいた意見をもとに、国の交付金を活用してより利用者に使いやすくするために改修を行う。

これまでの可動壁は設置場所が限定されていたが、展示形態のマンネリ化が生じており、その解消としてスライド式の可動壁に変更する。これによりブースのような利用方法や、九十九折りのような設置も可能になる。また、スポットライトの設置ラインを増設し、きめ細かく作品に照明を当てることができるようにする。さらにレクチャールームとの境界のガラス面を壁にすることで、より多くの作品展示ができるようにする。台形スペース部分についても可動壁を設置できるようにし、展示形態の多様化を図りたい。

県民ギャラリー以外についても、受付カウンター位置の調整、ミュージアムラウンジの棚についても可動式にし、水庭を活用したスペースの活用を広げる改修等を計画。さらに「秋田の行事」の展示スペースについても、ミュージアムラウンジとの境に自動ドアを設置し、騒音対策を図っていききたい。

##### □平成30年度秋田県立美術館展覧会の予定について

#### 4 協議

- 1階の改修について、広すぎて使いづらいという意見への対応はどうなっているのか。
- 部屋を区切って利用するというについては、ブースに区切ることは可能であり、2団体同時に利用することは可能だが、受付となる入り口は一つしかない。
- ガラス面を壁化するの恒久的なものなのか。
- スライド式の予定であり移動はできるが、すべて取り外して光を取り入れる形での利用は難しい。
- 研究機関や専門家、学内からも建築物当初のコンセプトがなくなることに  
ついて反対の意見がある。
- これまでは外光への対策を利用者自身が講じ、その経費を負担しなければ  
ならなかった。ほとんどの利用者が窓を生かした形での利用を考えておら  
ず、貸しギャラリーとしては非常に使いづらいという意見が多く寄せられ  
た。
- 先ほどの意見は、県立美術館の建物はコルビジェ建築のように、浮かんだ  
ように見える特色を持つ建築であり、それを生かすことができないのかと  
いうこと。費用がかかるがライトによって夕方以降、そのように見せるこ  
とはできるのではないか。  
県民ギャラリーの空間が長いことについては、キャッスル側に入り口を設  
けられないかという意見が過去にあったが、セキュリティの問題でかなわ  
なかったという理解で良いか。
- その通りである。可動壁がこれまでよりも自由に設置できることで、今ま  
でよりゆったりとした展示が可能になる。
- 可動壁は分離するのか。
- 4. 2mの幅の中で4枚に分離する。
- 美術館でどのような展示をやっているのかがわからないという意見を受  
け、今年度は広小路側と入口に新しく看板を設置した。また近隣商店街と  
の連携も強化し、展覧会の内容に合わせたパンなど商品開発やメニューの  
提供などを行ってきた。
- 来年度展示の日程について、美術館の学芸員による企画はどれで、パッケ  
ージはどれか。
- 近代美術館との連携展示、秋田のガラスアート展がオリジナルの企画であ  
る。
- 県立美術館を含むこのエリアの展望について最新の構想を伺いたい。
- エリアなかいちについては、旧県美と連携した形で動くわけだが、秋田市  
の中心市街地活性化計画がその中心であり、県はその動きを注視してい  
るという状況である。新文化施設、旧県美による芸術・文化ゾーンのにぎわ  
い創出策に、県立美術館としても連携協力していく。
- 旧美術館については、行政財産として、つまり美術館としてではなく、た

だの建物として生涯学習課が管理をしている状況。これを秋田市が譲渡を受けて活用したいという姿勢を見せているという状況であり、秋田市の動きを待っている。

- エリア全体としての計画をとりまとめる動きはないのか。
- 秋田市と連携して実施している「みるかネット」というものがあり、市内文化施設・交通機関の総合割引制度がある。
- 秋田市の中心市街地活性化計画に県が乗って県立美術館ができたという経緯があり、もともとのグランドデザインは市が描いている。
- 芸術・文化ゾーンとしての町づくりについて、グランドデザインが見えない。どうしたいのか、という部分がわからない。  
十和田市現代美術館では、商店街にもPR要請を行い、個々の店舗でもしっかり美術館のPRがおこなわれていたという話を聞いた。
- 逃げに聞こえるかもしれないが、そういう部分は本来、秋田市がやらなければならないのだと思う。現況についても市が進めてきたグランドデザインであり、県教育委員会、生涯学習課として、いままでグランドデザインには関わったことはない。
- 秋田県立美術館はキャラがたっていない。もっと人を大事にしてほしい。学芸員を大事にして、その企画力を生かし、その熱意がマンパワーとして周囲の協力を得られる力となる。現場の力を蓄えていくことが必要だと思う。図録を作ることが困難ということも問題で、記録がアーカイブされず、蓄積されなくなってしまう。
- ★来年度の計画については常設展・企画展において学芸員が力を発揮することになる。学芸員に力を付けさせることの重要性は十分理解している。その点でも来年は大事な年になる。パッケージが多いというご指摘だが、学芸員の疲弊状況を考えてのことでもあり、現在は学芸員3人体制の入れ替えの時期であり、若い学芸員がこれから育つ時期でもある。
- 入館者数について、順調に伸ばしており、目標が実現していることは評価できる。このノウハウを蓄積させていってほしい。
- セカンドスクールについては、入館者数に比べ伸びていないがその理由は何か。
- 活動のほとんどが鑑賞のみであり、多様な活動ができていないところが大きいのではないかと考えている。施設見学としての活用も含め、PRをすすめていきたい。また、複数回利用していただいている学校からはアンケートの他、ニーズの聞き取りなども行っていきたい。
- 全市町村すべてから来てもらうことを目標としていた。その目標は達成している。しかし来館した学校の規模が小規模であったことが利用人数の少なさに現れている。今後は1回来ていただいた学校に、バス代無しでもまた来てもらえる工夫が必要。そのための分析はまだ足りないのかもしれない。平成27年度は「政吉とフジタ」のミュージカルとの連動で利用数が

伸びた。

- 子どもは小さいほど体験型の学習が中心。鑑賞だけでは限界がある。
- 角館の小学校で、栽培したお米の販売活動を行っている。東京ではなく秋田の人と声を交わしながら販売する楽しみを生徒が訴えていると聞いた。そういった人とのつながりを取り入れていけないか。
- 美術館は、人がつながるところ、という考え方に変わってきている。そのことで思い出の場所になる。思い出のきっかけづくりという役割について県立美術館に期待している。
- 来年の夏に全国造形教育研究大会を秋田県で行う。県立美術館では子どもたちの作品展示の他、鑑賞の授業を行う予定である。
- 昨年度の県民ギャラリーの一般利用団体数は？  
 12 団体である。
- 美術館を利用したい団体は多くある。その受け皿として県民ギャラリーには人を集める場所になってほしい。色々な展覧会、例えばマンガなどの展覧会も積極的に実施してほしい。
- 今は作品を置いておけば人が来る、という時代ではなくなってきている。
- もちろんであるが、昔ながらのじっくり鑑賞できる展覧会も大事にしてほしい。

## 5 その他

### ・事務局から

県立美術館は本来指定管理施設であり、本会議は基本協定として指定管理者が行うべきであった。これまでは教育委員会が主導して行ってきたが、アドバイザー会議として県から依頼するのはこの任期をもって最後となる。今後は指定管理者主導で外部の意見をいただくことになるので、これまでどおり御協力を賜りたい。

### ・オブザーバーから

アドバイザーの皆さんには本当にお世話になった。本来は我々がこういった外部委員会を行わなければならなかったところだが、県教育委員会に行っていたら来てきた。これからは我々が主体的に実施するので、引き続きよろしくお願ひしたい。

## 6 閉会